

日刊 動労千葉

81.10.22
No.875

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六公衆)四七三二七二〇七

反戦闘争に決起!

10.20

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

中央集会在、動労千葉220名が決起に参加して——S生——

10・20 国鉄反戦中央集会の会場
—東京・明治公園。

そこは混迷し、流動化する日本の労働運動の現状を象徴するかのよう、焦りと怒り、あきらめと決意が交錯する場であった。再びアジア人民の血を吸うしか生きのびる事のできないブルジョアジーが、労働者・人民を鉄鎖でしばり、暗黒の血の海へと追いつめている。

改憲ダ。徴兵制ダ。守ルベキハ国家体制ダ。核武装化ダ。教科書検定ダ。刑法「改正」ダ。行革ダ。三五万人体制ダ、等、等、等。職場で、地域で、資本・権力の



「(10)20」の勝利の道がある、10・11三里塚集会で決意表明する闘い委員長

弾圧と労働組合のしめつけの中で軍靴の足音の高まりを感じた労働者が、怒りを胸に闘う方針を求めて続々と結集する。

労働者の苦闘を、血の叫びを既成指導部・大幹部たちはどれだけ受けとめていたというのだろうか。「労働戦線「統一」」などと支配階級とその手先がささやけそれが総評解体、暗黒と反動にむけた支配階級の明白な挑戦だと知ってか知らずか、われ先にとバスに乗ろうとする。……

こんなことで、いいのか! いや、ちがう。断じてちがう! 僕たちの身体の中を渦まき労働者の魂は、それを許さない。会場を埋め尽くす方を越える仲間の顔は皆怒っている。道を求めている。

ふと、胸の中を81・3ジェット決戦五日間ストの熱い感動がよぎる。10・11三里塚第一公園にあふれかえるはじけるような歓声がよみがえる。そうだ! これだ! ここに勝利の突破口がある。ここを進もう。

結集した労働者の切なる願いを踏みにじったのは、またしても動労「本部」反動分子らだ。三五万人体制に屈服し、闘う労働者に襲いかかり、警察を身内にした連中が、なるほど、右翼労働「統一」の最も忠実な尖兵の本性もあらわに必死のおもいで右翼的幹部を助け激励するため、抗議している労働者に襲いかかり、遂に中央集会は大混乱させられ、中止に追いやりられてしまった。だが、労働者の怒りの前に逆に押しもどされ、線入りヘルメットははぎとられ、けちらされてしまう。



(10)20中央集会(明治公園)

拍手と歓声の中を、青年部を先頭にゼッケンで身を固めた二百二十名の動労千葉の隊列が入場する。闘うシュプレヒコールが響く。三里塚空港ふんさーい!

二期工事を阻止するぞー!
右翼労働「統一」はんたい!
改憲・軍大化を阻止するぞー!
動労から革マルを追放するぞー!
動労千葉は闘うぞー!

改憲・軍事大国化にむけ反動攻勢が渦まき、労働運動の右傾化が雪崩うつ今、五日間の三里塚「ジェットストライキ」をうちぬいた自信と誇りに満ちあふれた動労千葉の組合員の姿こそ、路線の正しさを示し、勝利への唯一の道しるべだ。この日、渋谷までのデモを堂々と貫徹したわれわれの隊列の先頭組に、あざやかな横断幕がはためいた。【三里塚を守れ!三里塚から反撃を! 軍事大国化・改憲阻止・労働「統一」粉碎! 全人民の敵革マル粉碎・動労大改革!】闘う全国の仲間たちよ、この旗じるしの下、共に闘おう!そして勝利しよう!

県労連集会にも110名で参加

千葉県労連主催の10・20反戦集会は、千葉市・本町公園で開催され、三千名が結集した。動労千葉は東京・中央集会の他に百十名の隊列で参加し、最後まで闘いぬいた。